国際理解教育/開発教育　学習指導(活動)案

【実践者】

授業者氏名	青木　和也	学校名	栃木県立小山南高等学校
教科(科目)・領域	外国語(英語コミュニケーションⅡ)	対象学年(人数)	2年　普通科文Ⅱ組(28名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2025年　10月　～　11月　(8時間)	

【実践概要】

1. 単元名(活動名):服の向こうにある世界―ファストファッションから考える

2. 実践する教科・領域
外国語

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	(相互依存)	情報化		
C 地球的課題	(人権)	(環境)	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	(市民意識)	社会参加	

4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)

生徒がファストファッションに関連する社会的・環境的問題を理解し、持続可能な選択肢を考える力を養う。具体的には、ファストファッションの問題を多角的な視点で捉え、問題解決に向けた具体的な行動やアイデアを提案できるようになることを目指す。また、ディスカッションや英作文を通じて、批判的思考力と英語で発信する力を向上させる。

5. 単元の評価規準

①知識・技能	ファストファッションの概念、背景、影響について理解し、ファストファッションが生み出す社会的・環境的な問題を理解する。
②思考・判断・表現	ファストファッションがもたらすメリットとデメリットを批判的に考察し、二つの立場から議論できる。持続可能なファッションの未来について、自分の考えを発表することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	ファストファッションの問題に対して自分自身の意見を持ち、積極的にディスカッションに参加する。

6. 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

本単元は、高校生にとって身近で関心の高いテーマであるファッションを通じて、環境問題や社会的責任について考える力を養うことを目的としている。特に、手軽に購入できるファストファッションが及ぼす影響を理解し、持続可能な選択肢を意識することが重要である。

【児童／生徒観】

生徒たちは、日常生活において自分の身の回りの世界を中心に物事を捉えがちであり、視野が限定されている。また、自らの欲求や関心を優先して行動し、その背後にある社会的・環境的な影響には十分に目を向けていない。しかし、彼らが日々行っている消費行動は、世界各地の人々の労働や環境問題と密接に関わっていることを知ることができれば、身近な行動を見直すきっかけになる。今後の学びを通して、自らの選択が地球規模の課題とつながっていることを理解し、より持続可能で責任ある消費活動へとつなげていくことが期待される。

【教材観】

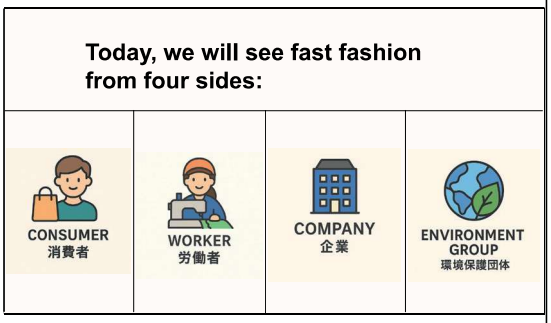
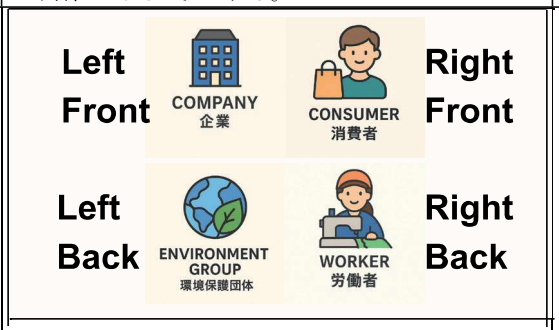
ファッションは高校生にとって最も身近で関心の高いテーマの一つである。日々の生活に直接関わり、自己表現の手段として大きな意味を持つ一方で、その背後には労働環境の過酷さや環境破壊、大量廃棄といった地球規模の課題が潜んでいる。本教材は、生徒が身近な関心事から学びを出発させ、やがて社会的・国際的なつながりに思いを広げることを可能にする。英語の文章や資料を通して問題の背景を知るだけでなく、ディスカッションや表現活動を通じて自らの考えを深めることができる点に大きな意義がある。また、消費行動と世界の現状を結び付ける契機として、持続可能な未来を考える学習に適している教材である。

【指導観】
本単元の指導においては、生徒が自分たちの生活と世界の課題を結び付けて考えられるよう、気づきを促す学習過程を重視する。教師が一方的に知識を与えるのではなく、資料やディスカッションを通じて生徒自身が問いを立て、多様な視点から問題を捉えられるよう支援することが重要である。また、立場別ディスカッションや英作文などの活動を通じて、単なる知識理解にとどまらず、自分の考えを表現し他者と共有する経験を積ませることで、批判的思考力と協働的な学びを育む。さらに、学習内容を日常の消費行動に結び付けさせることで、学びを自己の行動変容へとつなげ、持続可能な社会の担い手としての意識を高めていくことを目指す。加えて、立場や利害の異なる役割を演じる過程で、生徒がジレンマに直面することが予想される。その際、教師は生徒が感じた葛藤を共有・整理する場を設けることで、「多様な価値観の中でどう判断するか」という実社会に近い学びを体験させ、理解をより深めるよう支援する。

7. 単元計画(全 8 時間)

時間	ねらい	学習活動	資料など
1	ファストファッションの問題に対する認識を深める。	① 事前アンケートで生徒の意識を把握する。 ② 写真を見せ、感想を自由に書かせ、発表・ディスカッションを行う。 ③ 記事を読み、問題について深く学ぶ。 ④ ポートフォリオ記入で振り返りを行う。	・アンケート用紙 ・写真(スウェットショップ、ランドフィル) ・記事(ファストファッションの影響)
2 本時	異なる立場からファストファッションを考え、視点を広げる。	① 前回の内容を簡単に振り返る。 ② 立場別ディスカッション(消費者、労働者、企業、環境保護団体)。 ③ 各グループで意見を発表し、学びを深める。 ④ ディスカッション後、全体で感想を共有。	・立場別ディスカッション用資料(簡単な英文) ・発表用シート
3	持続可能な選択肢を学び、実生活でできる改善策を考える。	① エシカルファッションやリサイクル素材について考える。 ② 実生活でできる改善策をグループで提案する。 ③ 提案内容を全体で共有し、最も実行可能なものを選ぶ。 ④ バングラデシュで衣類製造をしている現地の知人からのメッセージを紹介し、実際に働く人々の声に触れる。	・エシカルファッションの事例資料 ・改善策提案シート ・現地からのメッセージ(動画)
4,5	ファストファッションの問題点と持続可能な選択肢について、プレゼンテーションを準備する。	① 各グループでファストファッションの問題点と持続可能な選択肢について資料を作成。 ② プレゼンテーションの発表に向けて資料を整理。	・ファストファッション問題に関するデータ、事例資料 ・プレゼン用資料作成テンプレート
6	各グループのプレゼンテーションを通じて学びを深める。	① 各グループが準備したプレゼンテーションを発表。 ② 他のグループの発表にフィードバックを行い、意見交換。	・プレゼンテーション資料 ・フィードバックシート
7	ファストファッションに関するテーマを英語で表現し、意見を述べる力を養う。	① 「体育祭で使うTシャツを毎年作り変えるかどうか」というテーマについて、英作文を作成する。 ② 作成した英作文をクラスでシェアし、他の生徒からフィードバックを受ける。	・英作文作成シート ・フィードバックシート
8	ファストファッションの問題を実生活に関連付け、エシカルな選択肢を考える力を養う。	① 「体育祭で使うTシャツを毎年作り変えるかどうか」というテーマでディスカッションを行い、持続可能性やエシカルな選択肢を考える。	・英作文作成シート ・フィードバックシート

8. 本時の展開(概略)
本時のねらい:異なる立場からファストファッションを考え、その後自分の意見を他の生徒と共有して深める。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1　前時の振り返り T「前回は、ファストファッションが引き起こす問題について考えてきました。その中で、こんな意見が出ました。」 T "Last time, we talked about problems of fast fashion. These were some ideas." S ・安く買える裏で人が苦しんでいる。 ・労働環境がとても悪い。 ・大量生産・大量廃棄が問題。 ・環境や命より利益が優先されている。 T「今日はこの"問題"をもっと深く理解するために、異なる4つの立場(消費者・労働者・企業・環境保護団体)の視点から考えます。」 T "Today we will think more deeply. We will see fast fashion from four sides: consumer, worker, company, and environment group."	・前時の記憶を呼び起こし、本時の目的を理解する。 ・消費者以外からの視点で書かれている意見を意図的に取り上げ紹介する。  ・めあてを意識させることで、生徒がねらい達成が明確になるようにする。	・前時の意見抜粋スライド ・黒板
展開 (15分)	T「このあとそれぞれのグループで、4人が別々の立場に分かれてディスカッションを行います。役割は座っている場所によって決めます。」 T "Now, in each group, everyone will take a different role. Your role is decided by your seat." (左前＝企業 / 右前＝消費者 / 左後＝環境保護団体 / 右後＝労働者) T「ディスカッションのテーマは、この3つです。自分の立場になったつもりで考えてください。」 T "The discussion topics are these three. Please answer as your role, not as yourself." ディスカッションのテーマ 1. In your role, what is the most important thing in the fashion industry? (あなたの立場にとって、ファッション業界で一番大切なことは何ですか？) 2. In your role, who should take	 	

	responsibility for the problems of fast fashion? （あなたの立場から見て、ファストファッションの問題では誰が責任をとるべきですか？） 3. In your role, which way should the fashion industry go in the future? （あなたの立場から考えて、この先のファッション業界はどの方向に進むべきですか？） T「初めに、ディスカッションに向けて、自分の立場がどのような状況にあるのか、説明文を読みましょう。」 T “First, before discussion, read the paper and understand the situation of your role.” T「読んだら、3つのテーマについて自分の立場の考えをまとめてみましょう。」 T “Then, think about the three topics and write the ideas of your role.”	・生徒は立場説明文を読み、重要だと思う点や主張したいことをワークシートに整理する。 ・分からない単語は日本語訳を確認してよいと伝える。 ・感染症流行時には、資料配布は教師が行い、生徒間で回さないようにする。 **演じる立場（あてはまるものに〇をつける）** 労働者　企業　消費者　環境活動家 **質問①** In your role, what is the most important thing in the fashion industry? （あなたの立場にとって、ファッション業界で一番大切なことは何ですか？） • 労働者の生活と安全 • 企業の利益と成長 • 消費者の安くて流行の服 • 環境の保護 **メモ欄** • 労働者:_____ • 企業:_____ • 消費者:_____ • 環境活動家:_____	・立場説明文（英文・日本語訳付き） ・ワークシート
（20分）	3　立場別ディスカッション T「それでは、役割になりきって話し合いを始めましょう。」 T “Now, speak as your role.” T「意見を言うときは、必ず理由も言ってください。」 T “Please give reasons for your ideas.” T「まず司会を決めましょう。そしてルールを守って話し合いましょう。」 T “First, choose a leader. Then, follow the rules.” S 消費者の立場 ・おしゃれでコスパの良い服を楽しみたい。 ・安くて流行の服が買えるのは嬉しいが、作る人の苦しみも考えるべき。 ・消費者が行動を変えれば企業も変わる。	**Discussion Rules** **～みんなで気持ちよく話すために～** **・司会を1人決める** **・話すときは「話す順番アイテム」を持っている人だけが発言できる** **・理由をいれて、1人30秒以内で話す** **・相手の意見をよく聞き、話の途中で口をはさまない** **・メモをとって整理する** ・生徒は司会を決め、ルールに従ってディスカッションを行う。 ・教師は必要に応じてグループに入り、発言を促す。 ・感染症流行時には、マスク着用や距離を確保。	・ワークシート

	・服を大切に使い、労働者や環境にやさしい選択をすることが大切。 労働者の立場 ・命と安全、そして生活を守ることが大切。 ・安全な職場と適切な労働時間、休憩、給料が必要。 ・企業と国が責任を持って労働環境を改善すべき。 ・働く人が誇りを持って安心して働ける社会にしていく。 企業の立場 ・利益と成長を維持しながら、社会的責任を果たすことが重要。 ・労働者や環境への配慮を強め、信頼できる企業になるべき。 ・リサイクルやエコ活動を進め、ブランド価値を高める。 ・安さと流行、そして人の幸福を両立する産業を目指す。 環境保護団体の立場 ・環境を汚さない服づくりと資源の保護が大切。 ・企業がまず責任を持ち、できない場合は外部が監視・支援する。 ・大量生産・大量廃棄を減らし、リサイクル素材や長く使える服を広める。 ・環境と人の両方にやさしいバランスのとれた社会を目指す。		
まとめ (10 分)	4　振り返り T「最後に、今日のディスカッションをふり返りましょう。」 T “Let’s look back on today’s talk.” T「まず、自分の感想をワークシートに書きましょう。」 T: “First, please write your reflection on the worksheet.” T「次に、グループで感想をシェアしてください。一人ずつ順番に発表しましょう。」 T: “Next, share your reflection in your group. Take turns one by one.” T「グループでの話し合いが終わった人から、Teams の Forms にアクセスして、今日の授業の感想を入力してください。」 T: “After your group discussion, please access Teams Forms and write your reflection of today’s lesson.” S ・立場によって考え方や責任の感じ方	・迷っている生徒には 「どの立場の話が印象に残った？」と促す 「自分の意見と違った立場の意見を聞いて、新しい気づきはありましたか？」 と問いかける ・記入内容は回収して次時の資料に活用する ・感染症流行時には、グループでの感想のシェアは省略する。	・ワークシート ・振り返りシート(Forms)に意見を書く。

	が違うとわかった。 ・安さ・環境・働く人のことなど、どの立場にも正解があると感じた。 ・話し合うことでお互いの改善点に気づけて、考えを深めることができた。 ・すべてを企業のせいにするのではなく、自分たちにもできることがあると思った。		

【自己評価】

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

① 知識・技能（観察）（ワークシート）

- 4つの立場（消費者・労働者・企業・環境保護団体）の視点を理解している。
- 立場ごとの背景や課題（労働環境、環境負荷、企業戦略、消費者行動）について、英文資料と日本語をもとに把握できている。

② 思考・判断・表現（観察）（ワークシート）

- 与えられた立場の視点から、ファストファッションの問題を論理的に説明できる。
- その立場の主張を理由とともに述べられている。
- 他の立場の意見を聞き、自分の意見の修正や補足ができている。

③ 主体的に学習に取り組む態度（観察）（ワークシート）

- グループディスカッションに積極的に参加している。
- 他の意見に耳を傾け、相づちや質問を行っている。
- 振り返りシートに、自分の気づきや学びを具体的に書いている。

10. 学習方法および外部との連携

現地の声の導入

バングラデシュで衣類製造に携わる現地の知人からのメッセージ（動画・音声・文章）を紹介することで、生徒は「ファストファッションの背景で働く人々のリアルな姿」に直接触れることができる。これにより、学習内容が抽象的な知識にとどまらず、現実社会の課題として実感を伴って理解される。

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み

本単元の実施にあたっては、校内外の多様な関係者と連携しながら、国際理解教育の実践を広げることを重視した。特に家庭科教員をゲストティーチャーとして招き、「衣服の消費と生産」という観点から多角的に学びを深めた。英語科で扱う「ファストファッション」のテーマに対し、家庭科から衣生活や持続可能な消費の視点を補完することで、生徒は自らの生活と世界のつながりを実感しながら学ぶことができた。

また、授業で使用した指導案やワークシートを校内共有フォルダに整理・保存し、他教員が再活用できる体制を整備した。学習者同士の関係性の面では、立場別アクティビティやディスカッションを多く取り入れ、異なる価値観を尊重しながら対話する姿勢を育んだ。これにより、生徒一人ひとりが国際的課題を「自分ごと」として捉え、思考を深める学びが生まれた。

12. 苦労した点　※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。

本時の目標は「異なる立場（消費者・労働者・企業・環境保護団体）の視点からファストファッションを考え、意見を共有することで、自分の考えを広げ深める」ことであったが、実際には一部のグループで議論が偏り、特定の立場（主に企業）に責任を集中させる結論に至る場面が見られた。多様な視点を踏まえた対話的な深まりを引き出すことの難しさを痛感した。

13. 改善点

今後は、特定の立場への偏りが生じた際に、生徒の思考を広げるための切り返しの発問や問い返しをあらかじめ複数準備しておく必要があると感じた。

例えば、

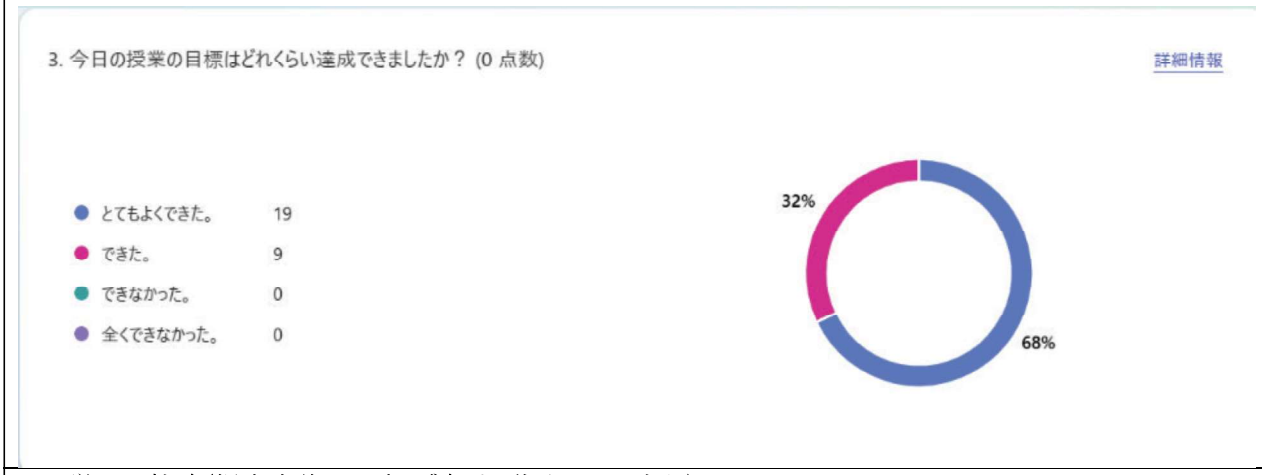
・「企業だけでなく、消費者や他の立場にできることは何があるだろうか。」
・「責任を分け合うとしたら、どのような形が理想だと思うか。」

といった問いを用意しておくことで、より多面的な議論を促すことができると考える。

14. 成果が出た点

一部に偏りは見られたものの、多くの生徒が自分の立場以外の意見を理解しようと努め、多様な価値観を意識する姿勢が育まれた。また、グループ内での発言量が増え、普段あまり意見を述べない生徒も、役割を演じることで安

心して発言できていた。全体として、授業のねらいに迫る学びが見られた。



15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど)

(生徒の授業振り返りより抜粋)

・全て企業のせいじゃないことがわかりました。

・違う立場の人と話すことによって、お互いに改善すべき点を見つけ出すことができた。

・いろいろな視点から物事を見て考えることの大切さがわかった。でも、すぐには改善できないと思った。

・ファストファッションの問題についていろんな立場からの意見を考えたり、それぞれが出来ることをしてファストファッションの問題を解決することが大事だと思った。

・それぞれの立場で共通する考え方があったり違う考え方があるのがわかりました。様々な立場ができる最大限のことをすれば解決に向かうのかなと思いました。

・環境に優しくコスパがいい服が一番いいと思った。

これらの発言から、「他者理解 → 多面的思考 → 自分ごと化」への変化が読み取れた。

16. 授業者による自由記述

本研修を通じて、カリキュラム全体を見通した授業設計の重要性を改めて認識した。8時間にわたる単元を独自教材によって構築するのは初めての試みであったが、実際に授業を実施する中で、単発的な授業と比較して、単元として計画的に構成された学習では生徒の思考の深まりや学びの定着度が格段に高まることを実感した。今後は、年間カリキュラム全体の体系化を進め、より長期的な視点で生徒の資質・能力を育成できるよう取り組んでいきたい。

結びに、本研修を企画・運営してくださったJICAの皆様、並びに授業立案から公開授業当日まで一対一で丁寧にご指導くださった先生方に、心より感謝申し上げます。本研修は、これまでに参加したいずれの研修にも増して、教員としての力量を着実に高めることができた、極めて有意義な機会となりました。

【参考資料】

・ILO(国際労働機関, 2021)調査
・Rana Plaza 崩壊(2013 年, バングラデシュ)
・Statista(2022)調査
・Recruit 進学総研(2023)調査
・UNEP(国連環境計画, 2021)報告